

安全データシート

改訂日:2022年4月1日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名)
会社名
住所
担当部門
電話番号
FAX番号
整理番号

tert-アミルアルコール
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
品質保証室
(06)6393-4001
(06)6396-7714
AA0965

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体:区分2
急性毒性(経口):区分4
急性毒性(経皮):区分4
急性毒性(吸入:蒸気):区分4
皮膚腐食性・刺激性:区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:区分2A
特定標的臓器毒性:区分1(中枢神経系)
(単回暴露) 区分3(麻酔作用)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有害
吸入すると有害
皮膚刺激
強い眼刺激
臓器の障害(中枢神経系)
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱後は手などをよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
【応急措置】
火災の場合には、火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火すること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚(又は髪)に付着した場合: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。
ばく露した場合: 医師に連絡すること。
【保管】
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。
【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
濃度又は濃度範囲（含有率）
官報公示整理番号（化審法/安衛法）

化学品
tert-アミルアルコール
2-メチル-2-ブタノール
 $(\text{CH}_3)_2\text{C}(\text{CH})\text{CH}_2\text{CH}_3$
CAS RN : 75-85-4
98%以上
(2)-217

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

医師に連絡すること。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医師に連絡すること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

医師に連絡すること。

揮発性液体なので、吐き出させるとかえって肺への吸引などの危険が増す。直ちに医療措置を受ける手配をする。水でよく口の中を洗わせてもよい。

被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤

棒状注水

火災時の措置に関する特有の危険有害性

燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

消火作業は、風上から行う。

特有の消火方法

周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火に粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂を使用すること。

消火を行う者の保護

消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスクなど）を着用する。

多量の場合、人を安全な場所に退避させる。

必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項

漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエスなど）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。

多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。

有害でなければ、火気、換気などに充分注意して蒸発、拡散させる。又は、散水して蒸発を促進させてもよい。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。

漏出物の上をむやみに歩かない。

火花を発生しない安全な用具を使用する。

二次災害の防止策

回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密封しておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気、全体排気)

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

安全取扱い注意事項

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

容器を密閉しておくこと。

接触回避 衛生対策	容器を接地すること、アースをとること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 取扱後は手などをよく洗うこと。
保管 安全な保管条件	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 火気厳禁 取り扱い後はよく手を洗うこと。
安全な容器包装材料	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。 ガラス、ステンレス鋼
8. 暴露防止及び保護措置 許容濃度（出典） 管理濃度 日本産業衛生学会 ACGIH 設備対策	未設定 未設定 未設定 蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。 容器を接地すること、アースをとること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護具 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器用保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。 保護眼鏡、保護面を着用すること。 保護手袋、保護衣保護眼鏡、保護面を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質 物理状態 色 臭い 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 引火点 自然発火温度 分解温度 pH 動粘性率（粘度） 溶解度	液体 無色透明 不快な鋭い臭い -9°C 102.5°C (765mmHg) 該当情報なし。 1.2~9.0% 19°C (CC) 435°C 該当情報なし。 6 (20°C, 118g/L) 3.79mPa・s (25°C) 水：124g/kg (25°C)、71g/kg (60°C) ベンゼン、クロロホルムに可溶。エタノール、ジエチルエーテルに混和。アセトンによく溶ける。
n-オクタノール/水分分配係数 蒸気圧 密度及び/又は相対密度 蒸気密度	log Kow = 0.89 16.8mmHg (25°C) 0.81g/cm ³ (20°C) 3.04 (空気=1)
10. 安定性及び反応性 反応性 化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	可燃性。危険な火災の危険性がある。 光に不安定である。 可燃性。危険な火災の危険性がある。 光 該当情報なし。 該当情報なし。
11. 有害性情報 急性毒性	経口 ラットのLD50値は1000 mg/kgおよび1000-2000 mg/kg（以上、PATTY (5th, 2001)）である。GHS分類：区分4

経皮	ウサギのLD50値は1720 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) である。GHS分類：区分4
吸入:ガス	GHSの定義における液体である。GHS分類：分類対象外
吸入:蒸気	ットに6時間ばく露により、5700 ppmで24時間以内に死亡し、3000 ppmでは生存した (PATTY (5th, 2001)) との結果から、LC50値は3000~5700 ppm (4時間ばく露の換算値：3225~6983 ppm) の範囲にあることが示され、区分4に該当する。 なお、試験濃度が飽和蒸気圧濃度 (22105 ppm) の90%より低いので、ミストがほとんど混在しない蒸気として気体の基準値を適用した。また、EU分類ではXn; R20である (EC-JRC (ESIS) (Access on Nov. 2011))。GHS分類：区分4
吸入:粉じん及びミスト	データなし。GHS分類：分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギの皮膚に半閉塞適用 (布で覆う) した場合紅斑と落屑が生じたとの結果 (PATTY (5th, 2001)) から、区分2に相当する。 なお、開放適用では反復しても刺激性は見られず、不浸透性の被覆剤で閉塞適用した場合は重度の壊死が報告 (PATTY (5th, 2001)) されているが、適用方法としてOECDの試験ガイドラインで示されている半閉塞適用の結果を分類根拠とした。なお、EUではXi; R37/38 (EC-JRC (ESIS) (Access on Nov. 2011)) に分類され、区分2相当である。GHS分類：区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギの眼に試験物質原液を適用し、中等度の結膜浮腫、中等度~重度の角膜混濁、中等度の虹彩炎が観察され、7日間では回復しなかったが14日後には完全に回復した (HSDB (2008)) との報告により、区分2Aに該当する。GHS分類：区分2A
呼吸器感作性又は皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験 (modified Maguire test) で感作性なし (none was sensitized) の結果 (HSDB (2008)) が得られているが、OECDで承認された試験法でなく、データの詳細も不明なため「分類できない」。GHS分類：分類できない
生殖細胞変異原性	in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験では、エームス試験で陰性 (Patty (5th, 2001)) の報告がある。GHS分類：分類できない
発がん性	データなし。GHS分類：分類できない
生殖毒性	データなし。GHS分類：分類できない
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	ヒトにおいて、意図的に本物質約 27 gを飲み込んだ女性が昏睡、呼吸困難、不規則性脈拍に続き、散瞳と縮瞳を示した症例 (PATTY (5th, 2001))、また、18 gを摂取した成人が意識消失し、1日以上持続した深い眠りに陥ったが緩やかに回復した症例 (HSDB (2008)) が報告されており、いずれも中枢神経系抑制症状と判断される。一方動物試験では、吸入ばく露後のラットの生存例で意識喪失や軽度の協調運動不能が見られ、ウサギでは50%の動物が昏迷と自発運動の消失を示す麻酔用量は700 mg/kgである (PATTY (5th, 2001)) と報告されている。 以上より、区分1 (中枢神経系)、区分3 (麻酔作用) に該当する。GHS分類：区分1 (中枢神経系)、区分3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	ラット、マウスおよびイヌに 0, 50, 225, 1000 ppm/6h (換算値 0, 0.180, 0.811, 3.61 mg/L/6h) を90日間吸入ばく露 (蒸気) した試験において、ラットでは1000 ppmで運動障害と肝臓重量の増加が観察され、NOELは225 ppm (0.811 mg/L)、マウスでは各用量ともばく露に関連した影響はなくNOELは1000 ppm (3.61 mg/L) と報告され、また、イヌでは1000 ppmで不安定歩行、運動障害、肝臓重量の増加、血清ALP活性の増加、各用量1匹の肝臓に封入体が観察された (HSDB (2008))。 これらの結果により、各動物ともガイダンス値範囲内 (1 mg/L以下) の用量では悪影響は認められなかったが、ガイダンス値上限 (1 mg/L) 付近での影響は不明のため吸入経路では分類できない。 一方、ウサギに0, 344, 3440 mg/kg/day (90日換算：0, 106, 1058 mg/kg/day) を4週間経皮投与した試験では、低用量の344 mg/kg/dayで皮膚に対する局所影響を除き全身性の影響は見出されず (HSDB (2008))、経皮では区分外に相当するが、経口投与についてはデータはなく、特定標的臓器毒性 (反復暴露) の分類としては「分類できない」。GHS分類：分類できない
誤えん有害性	データなし。GHS分類：分類できない
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: (急性) 魚類、甲殻類による急性毒性試験が100 mg/Lを超えている (AQUIRE, 2012; HSDB, 2008) ことから、区分外とした。GHS分類：水生環境有害性 (急性)：区分外 長期: (慢性) 信頼性のある慢性毒性データは得られていない。急性毒性区分外であり、難水溶性でない (水溶解度 = 110000 mg/L (PHYSPROP Database, 2009)) ことから、区分外とした。GHS分類：水生環境有害性 (急性)：区分外
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。

土壌中の移動性 オゾン層への有害性	該当情報なし。 当該物質はモンリオール議定書の附属書に列記されていないため。GHS分類：分類できない
13. 廃棄上の注意 化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意 国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	1105 ペンタノール クラス3 II 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 129
15. 適用法令 化学物質管理促進法 (PRTR法) 毒物及び劇物取締法 労働安全衛生法 消防法	指定化学物質に該当しない 毒物及び劇物に該当しない 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 [2-メチル-2-ブタノール] [施行令別表9] (2025年(令和7年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物 [2-メチル-2-ブタノール] (2025年(令和7年4月1日)以降) 危険物・引火性のもの 第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体
16. その他の情報 参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 職場の安全サイト(厚生労働省)
その他	記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。